

博修士会会報

Alumni Bulletin For K.U.Masters and Doctors 2007年7月1日発行



ごあいさつ

関西大学博修士会会長

北嶋 弘一

関西大学博修士会会員の皆様には、益々ご健勝にて各地ならびに各界においてご活躍のこととお慶び申し上げます。昨年度の博修士会総会において会長を拝命いたしました北嶋（昭44院修機）でございます。天井一夫前会長同様よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

平素より、会員の皆様には本会の運営に対しまして温かいご助言をはじめ特別協力金のご寄付などを賜わりまして厚く御礼申し上げます。

博修士会は、本年度で創立55年目を迎えて修了生の総数も1万人を超える大所帯に成長いたしております。これまで7研究科で構成されておりましたが、今や8研究科を擁する博士課程前期課程および同後期課程に専門職課程としての法科大学院および会計専門職大学院を加えた大規模な大学院に発展しております。

去る4月3日に挙行されました大学院入学式では、前期課程558名、後期課程77名、専門職課程219名の合

計854名のフレッシュな院生を迎え、関西大学の学問、研究の中核として母校発展の一翼を担っていただくことを期待するものであります。

ご案内のとおり、来る7月28日（土）には平成19年度博修士会総会・学術講演会を開催いたします。昨年11月母校関西大学は創立120周年を迎え、千里山キャンパスは大きく変貌し、この機会に是非ともその目覚しい発展振りをも併せてご覧いただきたいと存じます。

本年度の総会は、千里山キャンパスに本年4月に新学部として開設されました政策創造学部の第1学舎5号館において開催することになりました。総会後の第2部学術講演会では、本会会員であるトヨタ自動車㈱において昨年より専務取締役生産技術本部長をお務めの井川正治（いかわ しょうじ）氏をお招きして、世界のトップに立つトヨタ自動車の生産技術の責任者であるお立場より「日本経済とトヨタの課題」と題して種々の裏話もまじえた講演をお願いすることになっておりますので、是非ともご期待いただきたいと存じます。

会員の皆様には、公私にわたってご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、7月28日（土）開催の平成19年度博修士会総会・学術講演会ならびに懇親会にご出席下さいますようお願い申し上げます。

平成19年度 総会・講演会・懇親会のご案内

講師▶

日時：平成19年7月28日（土） 13：30より受付開始
 場所：関西大学千里山キャンパス 第1学舎5号館4階
 内容：第1部 総会 14：00～14：50 E402教室
 第2部 学術講演会 15：00～16：00 E401教室
 演題：「日本経済とトヨタの課題」
 講師：トヨタ自動車㈱
 専務取締役・生産技術本部長 井川正治氏
 第3部 懇親会 16：30～18：00 以文館食堂
 会費：会員5,000円、院生会員は無料、非会員の院生は懇親会費3,000円、一般の方、聴講のみ（無料）
 お願い：ご出席の方は、7月23日（月）までに、e-mail、FAX、はがきで事前にお申し込み下さい。（出来るだけe-mailでお願い致します）



井川 正治 氏

- e-mail nakahara @ ipcku.kansai-u.ac.jp
- FAX 06-6388-8785 総務部 中原 宛
- はがき 〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35 関西大学大学院気付 博修士会
- 問合せ先 博修士会総務部 電話：06-6368-0810



タキタ技研株式会社

千里丘本店 〒567-0878 大阪府茨木市蔵垣内3-22-10
 TEL (072) 627-9615 FAX (072) 627-8561

URL: //www.takitard.com

新製品：光コンロ

取得特許第3547426
 第3822899

特徴

1. 「うまみ」を最大限に引き出すテーブル型炙り焼コンロです。
2. 最初にバリッと焼ける表面が「うまみ」を中に閉じ込めます。
3. 塩がなくても美味しく食べられ、無理なく減塩できます。
4. 水分を保ったまま、過剰な油を落としカロリを削減します。
5. 秋刀魚やトントロを焼いても油煙や煙で部屋を汚しません。
6. 汚れが焼き付く所が無く後の掃除が簡単。

詳細は弊社ホームページをご覧ください。

会員からのメッセージ

message

「成長の歳月」

袁 華 (平19修経)

二年という時間は長い人生の一瞬のことかもしれません。知らない間に過ぎてしまいました。しかし、私にとって関西大学で一圓先生と一緒に学んだ二年は忘れがたいものです。

人口の多い中国では、就職はとても困難で、とくに一部の良い仕事を探し当てたいならば、高学歴は重要な条件です。2003年3月、決心を固めて私は日本に留学する道を選びました。2005年の春には、順調に国際関係専攻の学士の学位を得た後、引き続き勉強するのか、帰国して就職するのか、再三熟慮した末に、私は前者の道を選びました。その結果、私は関西大学大学院に入学して、一圓先生の学生になりました。

一圓先生は、とても優秀な先生で、親切にまた厳格に教えてくださいました。先生からいただいた宿題はとても多くて、1～2週間に1回研究発表がありました。一年のとき、外国人学生として、私は他の日本人学生と同じように英語の文献を翻訳し、発表しました。発表のときはとても緊張し、自分の日本語訳がよくないために一圓先生にしかられるのではないかと、心配でした。しかし、先生は、とても根気よく注意深く私の誤りを訂正してくださり、また、日本語の不十分な私に分かるまで繰り返し教えてくださいました。先生の親切な指導にとっても感動しました。

この二年間、一圓先生は、私たち大学院生に各種の学術発表会に参加するように勧めてくださいました。一年生のとき、私は、生まれて初めて大阪市立大学で開催された発表会に参加して、その時の興奮を今も忘れません。2006年9月、一圓先生の推薦で、私は早稲田大学の多田先生の招待を受けて北京人民大学で開かれた社会保障に関する国際シンポジウムにも参加しました。このシン

ポジウムを通して私は沢山のことを得ました。2006年末にも、私は、関西大学で開催されたシンポジウムの準備を手伝う機会に恵まれました。2007年1月には、一圓先生の推薦で皇學館大学で私の人生で最初の研究発表を行ないました。

このような二年間を振り返って、私の親友はみんな私が成長したと言ってくれました。けれども、私の成長は、一圓先生の指導と分けて考えることはできません。私がまだ小学生のとき、中国の有名な作家の魯迅先生が書いた「藤野先生」を読んだことがありました。子どものころの私は、魯迅先生の気持ちを体験することができませんでした。しかし、今、私は魯迅先生のあの気持ちを体験できたと言えます。心から一圓先生に感謝しています。

私が帰国する前に、一圓先生は、私の帰国後の予定を尋ねました。今の中国の発展は急速ですが、国民の社会保障の現状は厳しいものです。去年、上海で市民の社会保障基金の汚職行為が発生して、ひとびとは驚きました。ここに私が挑戦すべき問題があるように思いました。最後に、私の母校関西大学に対して、また、私の恩師一圓先生に対して心から感謝いたします。



一圓先生と筆者

「大学院での抱負」

外国語教育学研究科博士課程前期課程
新入生総代 植木 美千子

国際化を背景に外国語教育のニーズが急速に高まってきました。そのような中、本大学院で外国語教育学を学ぶにあたり、抱負として、「実践力を身につける」、「学びのネットワーク構築」そして、「自己を豊かにする」という3つをあげたいと思います。

人は一生のうち多くのことを学び、いろいろな課題や知恵を身につけていきますが、そのほとんどは自らの学習によるといいます。ですから、「教えるより学ばせるような指導が出来ること」を目標に、プロフェッショナルである先生方から多くの理論や知識を学び、それらをどのように教育現場で生かせば学習者達の可能性を引き出すことが出来るのか、また学ぶ楽しさや分かる喜びを感じてもらえるのかを考え、自ら課題を発見し、解決することによって、将来へ繋がる実践力を養いたいです。

外国語教育学研究科は私のような学生経験しかない人だけではなく、社会経験、指導経験のある方も多く、年齢、性別もさまざまです。そのような多様な背景を持つ方々と一緒に学び、刺激あうことによって、学びのネットワークを構築したいと思います。



ゼミナール風景 (右端が筆者)

そして、3つ目の抱負は「自己を豊かにする」ということです。どんなに知識を身につけても、自己の内面が豊かでなければ「宝の持ち腐れ」になりかねません。自己を豊かにするための土壌作り、それが大学院生活での基礎になると思います。それは大学院でしか学べないということではないですが、学問・研究を通して物事に対する感性を磨き、自分の知らなかった多様な世界を知ることによって、自己を豊かにするだけでなく創造力、思考力も高めることが出来るのは大学院ならではの道だと思います。

これらの抱負を胸に、自分らしく一步一步、確実に歩み、将来は大学院で受けた恩恵を、教育の現場に還元していきたいです。

「ネパール発展への夢」



Gurung Roshan
(経済学研究科博士課程前期課程)

世界一高い山エベレストの国ネパールから、多くの留学生がそうであるように色々な夢を抱えて2004年10月に来日しました。子供の頃から日本は好きな国でしたが、大学生になり日本や日本人について多くのことを聞いたり、本や新聞で読んだりして、ますます日本のことに興味を持つようになりました。

ネパールは、今の日本とは大きく違う国です。しかし、昔の日本のことを学ぶと、現在のネパールと良く似ている点があることに気づきます。当時の日本は多くの人が農業に従事しながら、かなり低い生活水準で暮らしていました。しかし、日本は、その農業の生産性を着実に高めながら、や

がて高度経済成長を迎えたのです。その後の、日本人の生活水準が一変したことは言うまでもありません。

私は、こうした日本農業の発展を学ぶことで、ネパールのために小さな貢献をしたいと考えるようになりました。これが日本経済史を深く学ぶことを決意した理由です。ところが、私は日本語能力や日本史の知識が不十分でした。そこで、大学院に入学する前に半年間、研究生として学びながらこのような基礎能力の向上に努めたのです。今年の4月、ようやく大学院の試験に合格し、浜野教授の指導の下で日本経済史を専攻することになりました。

私が日本経済史の中で特に興味を持っている分野は、近代における農業の発展や、高度経済成長といったトピックです。大学院の2年間では、明治・大正期の農業発展を学ぶとともに、日本が農業国から工業国へと変わってゆく過程を詳しく勉強してみたいと思っています。修士論文では、日本の農業発展をネパールと比較しながら書いてみたいと思います。

私は日本の大学院を修了した後、ネパールに帰って日本で学んだ様々な知識や経験をネパールの経済的成功のために役立てたいと思っています。

「新司法試験合格体験記」



森下 知紀 (平18法科)

第1回新司法試験から、早くも1年が過ぎた。幸運にも合格し司法修習生となった今、修習生の視点から、新司法試験を振り返ってみようと思う。

現在、実務修習で最も強く感じるのは、事実認定の難しさである。法律は、ある事実に適用されると特定の法律効果が生じることを定めている。例えば、物を売ります、買いますという合意をしたという事実に民法を適用すると、買主は代金支払義務を負い、売主は物の引渡義務を負うという法律効果が発生する。このように説明すると極めて簡単であるが、現実の事件では、例えば売ります買いますの合意という事実があったかどうかを見極めること、つまり事実認定が非常に難しい。

新司法試験は従来の司法試験とは異なり、問題文が非常に長く、多くの事実が盛り込まれており、事実の取捨選択を受験生が行わなければならない。即ち、従来の司法試験では、所与の事実に法律を適用する能力が試されていたのに対して、新司法試験は、法律適用の対象である、事実を認定する能力が試されていると言えるのではないか。当事者の言い分を問題文とする出題はまさに事実認定能力を試すものであろう。このような問題意識は、実務修習においてより強くなった。

では事実認定能力とは何か。経験則つまり一般常識から事実に法的意味づけを行い、その過程を言葉で表現する能力ではないか。弁護士は当事者の求める法律効果を発生させるため、検察官は有罪を立証するため、裁判官は適正妥当な解決を導くため、事実を取捨選択しその事実に法的な意味づけを行う。そして、これら法曹三者はみなその過程を文章で表現しなければならない。とすれば、法曹三者の資格試験である新司法試験がこの能力を試すものであるのは当然であろう。

以上、修習生の視点から、新司法試験について浅はかながら考察した。この稿が皆様の目に触れる頃には、第2回新司法試験はすでに終わっているであろうが、関西大学法科大学院出身の受験生が全力を出し切り、最高の結果を得られることを心から願う次第である。

「私の研究生活」

高倉 史人 (昭62博法)

現在、私は故郷の富山にある高岡法科大学に勤務し、日本法制史と商法を教えています。また、研究テーマは、明治初期から現在に至る会社法を中心とした商法の立法過程とその展開です。今、私の研究生活を振り返って見ると、その基礎は関西大学の大学院時代にできたと思っています。大学院では、故石尾芳久教授の薫陶を得、その後、非常勤講師として出講されていた山中永之佑大阪大学名誉教授のご指導を受けました。また、他の先生方からも多くのご教示をいただくことができました。この間、テーマの選定、資料の探索、論文の書き方など、研究者にとって基礎的な方法を学び修得する貴重な時間が与えられ、論文を書くことができたことを非常に感謝しております。また、博士課程後期課程1年の時、法制史学会に所属して他大学の先生方の研究報告を聞き意見交換ができたことは、貴重な体験であり、現在でもその先生方と交流があり、ご教示をいただいております。

ところで、研究する上で重要な点のひとつは、研究に必要な図書・資料をどれだけ収集できるかということです。その点、関西大学図書館は全国の大学の中で有数の図書・資料数を誇り、そして、「関西大学の図書館に行けば研究に必要な図書・資料が必ずある」といわれる程、研究者にとっていわば「宝の山」のごとき貴重な図書館だと思います。

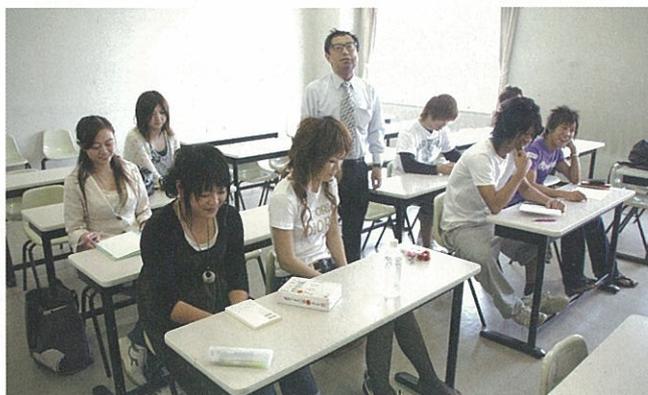
また、先ほど述べましたように、私の研究テーマは、明治初期から現在に至る会社法を中心とした商法の立法過程とその展開で、商法史と呼ばれるものです。この研究には、明治時代から現在までの商法に関する図書・資料が揃っていて、それらが容易に閲覧・謄写できる図書館が必要と

なります。

例えば、現在、商法から会社法が分離して、新しい会社法となって昨年の平成18年(2006)5月から施行されましたが、それ以前は、明治32年(1899)にできた商法が基本となっています。商法史の研究の一環として、私はこの明治32年にできた商法がどのように形成され展開したのかを解明し、その成果を『ジュリスト』1155号に発表しました。論文作成の際、法令集、帝国議会や委員会の議事録、商法学者の著作、政治家の日記、法律に関する新聞など多くの図書・資料を使用しましたが、これらのすべては、関西大学図書館に揃えてある図書・資料を閲覧・謄写させてもらいました。関西大学の図書館に必要な図書・資料が揃っていたからこそ書けた論文だと思っております。

また、現在勤務している高岡法科大学の法学部の紀要にも論文を発表しました。論文作成の際、高岡法科大学の図書館の図書・資料はもちろん利用しましたが、内容をより幅広く、また深めるために関西大学図書館の図書・資料を閲覧・謄写させてもらい完成させることができました。非常に感謝しております。

以上のべましたように、私の研究生活にとって、関西大学の大学院時代と図書館はかけがえない貴重なものです。そして、高岡法科大学で研究を重ね論文を発表することが、その恩返しになると考えております。(高岡法科大学法学部准教授)



ゼミナールの学生とともに

総会議案書



〈第1号議案〉

平成18年度事業報告

平成18年4月1日から
平成19年3月31日まで

[1] 総会に関する事項

開催日時：平成18年7月22日（土）14：00～
開催場所：関西大学千里山キャンパス 凜風館ミーティングルーム
来賓：竹下 賢 関西大学副学長
古川 好男 関西大学校友会副会長
畑 勝美 関西大学校友会事務局次長

◇第1部 総会（議事）

- (1) 平成17年度事業報告
- (2) 平成17年度決算および監査報告
- (3) 平成18年度一般会計収支予算案
- (4) 役員改選

◇第2部 学術講演会

演題 「新しい金属部品製造技術（MIM）のタイ王国への技術移転について」
講師 大阪冶金興業代表取締役 寺内俊太郎 氏

[2] 役員会に関する事項

◇理事会

- 平成18年5月11日（月）18：00～
関西大学100周年記念会館内「桃源」
（総会・決算・予算の件、その他）

◇常任理事会

- 平成19年2月17日（土）18：00～
関西大学先端科学技術推進機構：2階会議室
（修士記授与式、入会案内・入会受付手続き・記念写真撮影に関する件等）

◇役員会

- 平成18年11月18日（土）18：00～
新関西大学会館南棟「ボンプラット」

◇その他

- (1) 平成18年4月2日（日）
 - 2006スプリングフェスティバル（千里山キャンパス）に参加
- (2) 平成18年6月3日（土）
 - 校友会第87回定時代議員会（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナ・渉外部）
- (3) 平成18年7月1日（土）
 - 「博修士会会報」を編集・発行（広報部）
- (4) 平成18年7月8日（土）
 - 校友会全国組織代表者会議（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナ・渉外部）
- (5) 平成18年10月15日（日）
 - 関西大学創立120周年記念校友会総会（関西大学中央体育館）に出席（全部署）
- (6) 平成18年11月4日（土）
 - 関西大学創立120周年記念式典（関西大学BIGホール100）に出席（会長）
- (7) 平成19年1月20日（土）
 - 校友会新年互礼会（新阪急ホテル）に出席（会長コーナ）
- (8) 平成19年3月23日（木）
 - 学位記及び博士課程後期課程単位修得証書授与式（関西大学BIGホール100）に出席（会長コーナ）
 - 新会員の入会受付（総務部・渉外部・財務部）
 - 記念写真撮影（渉外部・事業部）
- (9) 平成19年3月24日（土）
 - 校友会第88回定時代議員会（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナ・総務部）

〈第2号議案〉

平成18年度収支決算報告書

一般会計収支決算書

自 平成18年4月1日
至 平成19年3月31日

(収入の部)

(単位：円)

項目	予算額	実行額	差引差額
経常収入	930,010	973,121	△ 43,111
1. 会費収入	420,000	417,000	3,000
① 入会金収入	60,000	45,000	15,000
② 院生会費収入	360,000	372,000	△ 12,000
2. 事業収入	210,000	93,000	117,000
① 総会会費収入	150,000	93,000	57,000
② 広告料収入	60,000	0	60,000
3. 雑収入等	300,010	463,121	△ 163,111
① 雑収入	50,000	49,000	1,000
② 特別協力金収入	250,000	414,000	△ 164,000
③ 受取利息	10	121	△ 111
前期繰越金	526,778	526,778	0
合計	1,456,788	1,499,899	△ 43,111

(支出の部)

(単位：円)

項目	予算額	実行額	差引差額
経常支出	900,000	646,043	253,957
1. 一般管理費	165,000	222,336	△ 57,336
① 通信費	65,000	91,160	△ 26,160
② 事務用消耗品費	60,000	106,566	△ 46,566
③ 支払手数料	10,000	11,610	△ 1,610
④ 雑費	30,000	13,000	17,000
2. 会議費	385,000	154,827	230,173
① 総会費	250,000	142,000	108,000
② 記念品費	85,000	0	85,000
③ 諸会議費	50,000	12,827	37,173
3. 事業費	350,000	268,880	81,120
① 印刷費	300,000	267,750	32,250
② 修士記授与記念写真費	50,000	1,130	48,870
予備支出	50,000	0	50,000
予備費	50,000	0	50,000
当期支出合計	950,000	646,043	303,957
次期繰越金	506,788	853,856	△ 347,068
合計	1,456,788	1,499,899	△ 43,111

総会議案書



平成18年度特別会計収支決算書

奨学金特別基金

自平成18年4月1日
至平成19年3月31日

(単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	1,199,241	次期繰越金	1,199,791
受取利息	550		
合計	1,199,791	合計	1,199,791

名簿特別勘定

自平成18年4月1日
至平成19年3月31日

(単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	849,521	次期繰越金	849,909
名簿売却収入	0		
本会計より入金	0		
受取利息	388		
合計	849,909	合計	849,909

財産目録

平成19年3月31日現在

(資産の部)

(単位:円)

科目	摘要	金額
普通預金	りそな銀行難波支店 No.6268180	232,310
普通預金	りそな銀行難波支店 No.6268206	1,199,791
普通預金	りそな銀行難波支店 No.6268194	849,909
郵便振替口座	00900-2-68733	565,640
通常貯金	14160-93310081	55,906
未収入金		0
合計		2,903,556

(負債・正味財産の部)

(単位:円)

科目	摘要	金額
未払金	該当事項なし	0
合計		0
正味財産	次期繰越金合計	2,903,556
合計		2,903,556

監査報告書

私たちは、平成18年4月1日から平成19年3月31日に至る一般会計収支決算書、奨学金特別基金ならびに名簿特別勘定の特別会計収支決算書および財産目録につき監査を実施した。

その結果、上記決算書類は、適正なものであることを認める。

平成19年6月10日

監事 沢 勲
同 竿 田 嗣 夫
同 水 野 一 郎

<第3号議案>

平成19年度一般会計収支予算(案)

自平成19年4月1日
至平成20年3月31日

(収入の部)

項目	予算額	摘要
経常収入	1,350,130	
1.会費収入	540,000	
①入会金収入	60,000	正会員入会見込 15,000円×4人
②院生会費収入	480,000	院生会員入会見込 12,000円×40人
2.事業収入	360,000	
①総会会費収入	300,000	総会出席見込 5,000円×60人
②広告料収入	60,000	
3.雑収入等	450,130	
①雑収入	50,000	
②特別協力金収入	400,000	
③受取利息	130	預金利息等
前期繰越金	853,856	
合計	2,203,986	

(支出の部)

項目	予算額	摘要
経常支出	1,135,000	
1.一般管理費	265,000	
①通信費	100,000	会報・写真等郵送料
②事務用消耗品費	120,000	名簿作成コピー代等
③支払手数料	15,000	振込手数料
④雑費	30,000	
2.会議費	500,000	
①総会費	400,000	総会会場費
②記念品費	50,000	
③諸会議費	50,000	
3.事業費	370,000	
①印刷費	320,000	会報・総会案内等印刷費
②修士記授与 記念写真費	50,000	
予備支出	50,000	
予備費	50,000	
次期繰越金	1,018,986	
合計	2,203,986	

※ 予備費の支出は、役員会の承認を得たものとする。

<第4号議案>

その他

■ 新会長に北嶋弘一 工学部教授が就任



退任の挨拶をする天井前会長

博修士会の18年度総会が、7月22日千里山キャンパス凜風館4階ミーティングルームで開催された。来賓として竹下賢副学長、古川好男校友会副会長、畑勝美校友会事務局次長を迎え、北嶋弘一会長代理の開会の

辞に続き、天井一夫会長の挨拶があった。

竹下副学長は、「弁護士、公認会計士、教員、臨床心理士等の高度専門職に対応する大学院におけるリカレント教育は今後ますます重要になってくる」と、大学院教育の重要性を強調された。また、古川校友会副会長は、青年を育てるといふ大学の役割について述べ、10月15日の「母校創立120周年記念校友会」への参加を呼びかけた。

議事では、事業・決算報告や予算案が承認され、役員改選により天井会長が退任し、北嶋会長代理が次期会長に就任した。天井会長は、昭和51年6月の定時総会において副会長に就任以来、佐々木・津川両会長を支え、平成14年7月の創立50周年記念総会で第5代会長に就任。実に30年にわたり博修士会に貢献された。北嶋新会長のもとで、会のますますの発展が期待される。

学術講演会では、寺内俊太郎氏（大阪冶金興業代表取締役社長）が、「新しい金属部品製造技術（MIM）のタイ王国への技術移転について」と題して講演された。寺内氏は、産学連携の重要さと豊富な成果事例を報告されるとともに、自社のみならず同業他社、学官

による国際連携の一端を紹介された。

講演の後は、桃源（100周年記念会館）で懇親会が行われ、会員相互のいっそうの親睦をはかった。

（博修士会広報部）

「関大」535号（2006.9.15）より転載

■ 新修士670人誕生



平成18年度関西大学学位（修士・専門職）記授与式は3月23日10時から、千里山キャンパスBIGホール100で行われた。

9研究科670名の修了生に対し河田悌一学長は、デューイの下でプラグマティズムを学んだ胡適の言葉を引用して、学問、そして研究者は社会の変革を生み出すことが大切であると述べた。また、「知識基盤社会」においては、新時代の大学院教育と、世界に通用する多くの人材を日本から輩出する必要があると述べた。

最後に、恩師、友人を大事に、理想は高く、姿勢は低く、健全な市民として、少しでも世のため人のために役立つ人材として生きていてもらいたいと祝辞を締めくくった。

修了生総代の山室公司さんは、大学院で学んだ専門知識を生かして社会に貢献し、自らも向上していきたいと、力強く抱負を述べた。

なお、学位（博士）記授与式は、同日14時から関西大学会館4階で行われ、40人の博士が誕生した。

（博修士会広報部）

「関大」第539号（2007.5.15）より転載

特別協力金納入者名簿（五十音順、敬称略）

青野 義弘	天井 一夫	網本 浩幸	有福 健
飯田 幸雄	石川 昌司	今村 隆	岩井 治夫
岩崎 利彦	江原 静	緒方 正則	岡本 哲和
越智 光一	小幡 斉	北川 愛	北川 均
北川 勝彦	北嶋 弘一	北村 英子	熊田喜三男
黒田 英利	後藤 安子	小松陽一郎	芋田 嗣夫
坂口 哲司	澤 勲	鹿田 幸治	菅谷 文則
鈴木 通保	住友 誠	辰巳 衛治	椿 信二
寺内俊太郎	徳矢 典子	富田 好久	中下 寛治
中橋 久史	長濱 治男	西崎 義男	羽間 弘
平野 裕	福田 憲治	藤井 栄喜	藤井 英志
藤井 収	藤井 昭三	藤本 周一	正木 明
松田 充弘	宮内 勉	明神 信夫	山本 公次
山本 善章	横田 伸敬	吉村 耕治	

博修士会からのお願い

特別協力金のご協力をいただきました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。会の財政が逼迫しておりますので、本年度も引き続きご協力をお願いいたします。

1口1,000円、できれば2口以上お願いいたします。また終身会費15,000円を未納の方は、納入をお願いいたします。

郵便振替 00900-2-68733 関西大学博修士会

お知らせ! ホームページも見て下さい!

URL: <http://www2.ocn.ne.jp/~kandaimd/>

2007年号

発行人 北嶋 弘一 / 編集人 北川 勝彦

発行所 関西大学博修士会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 関西大学大学院内